

表-7.1.4(1) 陸上動物に係る環境保全措置（その5）

実施主体		事業者
方法及び実施の内容		・航空障害灯の設置に当たっては、ズグロミゾゴイ及びリュウキュウツミの繁殖期（4～6月）を避けて工事を行う。
効果		・ズグロミゾゴイ及びリュウキュウツミの繁殖期をさけることで、繁殖行動に及ぼす影響を回避できる。
当該措置を講じた後の環境の状況の変化		・当該措置を講じた後の環境の状況には変化はない。
効果の不確実性の程度		—
実施に伴い生ずるおそれがある環境への影響		・実施に伴い生ずるおそれがある環境への影響はない。
代償措置	環境影響を回避し、又は低減させることが困難である理由	—
	損なわれ又は創出される環境に関し、位置並びに環境要素の種類及び内容	—

表-7.1.4(1) 陸上動物に係る環境保全措置（その6）

実施主体		事業者
方法及び実施の内容		・通行車両によるロードキル等の影響を回避・低減するため、動物が横断することを車両運転者に知らせる注意看板を設置する。
効果		・注意看板を設置し、ロードキルの影響を低減するとともに、運転者に減速を喚起することにより、重要な種の生息状況に及ぼす影響は低減される。
当該措置を講じた後の環境の状況の変化		・当該措置を講じた後の環境の状況には変化はない。
効果の不確実性の程度		・注意看板の設置により運転者に減速・注意を喚起することで、環境保全措置の効果が期待できる。
実施に伴い生ずるおそれがある環境への影響		・実施に伴い生ずるおそれがある環境への影響はない。
代償措置	環境影響を回避し、又は低減させることが困難である理由	—
	損なわれ又は創出される環境に関し、位置並びに環境要素の種類及び内容	—